

1

海洋立国日本を考える 20回目の「海の日」を迎えて

第1節 20回目の「海の日」を迎えての取組

日本は、国土面積の約12倍の海域を有する世界有数の海洋国家である。我々は、海から食料の恵みを得て、人や物を行き来させ、海で遊び、海の恩恵を受けてきた。また、海を利用して海運業や造船業等の産業を興し、発展してきた日本は現在、貨物輸送の99%が外航海運によって担われ、また、海運業、造船業は優秀な海洋人材によって支えられている。

海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う「海の日」。

今年は「海の日」が制定されて20回目という節目の年であり、我が国は全国各地で様々な行事を開催する。

これら特別の行事を通じ、日本が海から受けている恩恵や日本の海洋との関わりについて改めて考えるとともに、海洋国家日本の貢献を国際社会に強く発信していく。



▲ 第20回「海の日」特別行事ロゴマーク

第2節 第20回「海の日」特別行事

1995年、海の恩恵に感謝し、海洋国である日本の繁栄を願う「海の日」が日本で祝日として制定された（翌1996年施行）。これは、1876年（明治9年）に明治天皇が東北地方を巡幸された帰途、燈台巡視船汽船「明治丸」で青森から函館経由で7月20日に無事横浜港にご帰着された日を祝う「海の記念日」に由来する日である。

2015年は海の日が制定されて20回目という節目の年である。これまで実施してきた内閣総理大臣メッセージ、海洋立国推進功労者表彰、海フェスタの開催に加え、今年は特別行事として国際海事機関（IMO）（※）との共催によるIMO「世界海の日パラレルイベント」や全国各地で「海の日」関連行事を民間・政府が一体となって開催する。

※ 海上の安全、船舶からの海洋汚染防止等、海事分野の諸問題について政府間の協力を推進するために設立された国連の専門機関。加盟国数171、準加盟国数3。

これらの取組を通じ、国民の海に対する理解と関心が一層深まり、日本が海から受けている恩恵や日本と海洋との関わりについて改めて考える機会とするとともに、海洋立国日本の貢献を国際社会に強く発信する。

▶（写真）登しょう礼：出航時に船員がヤードなどに登り、見送りに来た来客に謝礼を表す帆船最高の儀礼。（写真：航海訓練所。海王丸）



第3節 IMO「世界海の日パラレルイベント」

1977年、海運の安全や海洋環境の保護等の重要性についての社会の認識を高めるため、IMOにおいて「世界海の日」が制定された。毎年9月の最終週（今年は9月24日）に「世界海の日」記念式典がIMO本部（於ロンドン）で開催される。毎年重要政策テーマが定められ、世界各地で同じテーマについて社会の認識を高めるための行事や活動が行われている。2005年からは、IMO加盟国のいずれか一カ国を定めて世界海の日公式の周知行事としてIMO「世界海の日パラレルイベント」が開催されており、今年は「海事教育及び訓練」というテーマの下、我が国で開催する。

今年のパラレルイベントは、国内外から多数の有識者を招聘して海事教育及び訓練に関する「国際シンポジウム」を開催する。世界から多くの海事関係者の参加を得て、将来の海洋人材の教育及び訓練のあり方について議論し、とりまとめる。



▲（写真）2014年、モロッコで開催されたパラレルイベントの国際シンポジウムの様子。

第4節 海の日関連イベント

海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う「海の日」の趣旨に鑑み、国民に広く海についての理解・関心を深めてもらうためのきっかけづくりとするため、文化・観光・海事教育・体験事業などのイベントを日本各地で開催する。

(イベントの詳細は、国交省HP「海に親しむ」

(http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk1_000026.html) を参照)

日本で開催！2015年パラレルイベント

今年の世界海の日パラレルイベントでは、「海事教育及び訓練」とのテーマで国際シンポジウムを開催するとともに、日本の海事遺産を紹介するエクスカージョンを実施する。国際シンポジウムでは、現在の海洋人材の教育及び訓練の状況を紹介するとともに、昨今の海洋活動の多様化や若者の海への関心を高める必要性を踏まえ、将来の海洋人材の教育及び訓練のあり方を考える内容とする。国際性や女性活躍の観点を考慮して国内外の有識者を招聘し、パネルディスカッション形式で議論を行う。

エクスカージョンでは、日本の海事遺産を紹介し、日本と海洋との歴史的な関わりを参加者に発信する。また、閉会式においては、来年のパラレルイベント開催国であるトルコに、パラレルイベントの旗を引き継ぐ。

▶ (写真) 旗の引継ぎの様子：

2014年、モロッコでのパラレルイベントの閉会式にて、モロッコ政府から次期開催国の日本政府に旗が引き継がれた。



パラレルイベント
ロゴマーク



2015年
「世界海の日」
ロゴマーク

第5節 海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣表彰)

科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰し、その功績をたたえ広く世に知らしめることにより、国民が海洋に対する理解を深めていただく契機とするため、2008年より国土交通省をはじめ5省庁が共同で内閣総理大臣表彰として、「海洋立国推進功労者表彰」を実施している。

2015年の第8回表彰では、「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野及び「海洋に関する顕著な功績」分野において4名4団体が受賞した。

第8回海洋立国推進功労者表彰受賞者

● 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

【普及啓発・公益増進部門】

○ウーマンズフォーラム魚

[水産資源や漁業の重要性等の理解促進のための取組]

○道田 豊(東京大学大気海洋研究所)

[海洋分野における日本の国際的地位向上への貢献]

【科学技術・学術・研究・開発・技能部門】

○高田 秀重(東京農工大学大学院農学研究院)

[マイクロプラスチックによる海洋汚染の研究及び海洋環境保全への貢献]

【地域振興部門】

○志摩市

[新しい里海創生によるまちづくり]

● 「海洋に関する顕著な功績」分野

【海洋に関する科学技術振興部門】

○南極昭和基地大型大気レーダーチーム

[世界初の南極地域大型大気レーダーの開発]

【水産振興部門】

○鳥羽磯部漁業協同組合 答志支所 青壮年部

[藻場再生にかかる取組]

【海事部門】

○松本 光一郎(ジャパン マリンユナイテッド(株))

[波浪中省エネ船首形状の開発・実用化]

【自然環境保全部門】

○長谷川 博(東邦大学)

[アホウドリの保全生態学的研究並びに保護増殖への貢献]

第6節 全国行事

(1) 海の月間

—海の日のお趣旨徹底や健全な海事思想の普及—

1996年に国民の祝日「海の日」が施行され、さらに2003年に「海の日」が7月第3月曜日になり3連休となったことを契機として、国民の祝日「海の日」を中心とした広い活動を展開していくため、7月1日から31日までの1ヶ月間を「海の月間」として、官民一体となり活発な広報活動を展開している。

期間中には全国各地で海に親しむためのレクリエーション、体験乗船、施設見学等の様々なイベントが展開され、その最大のイベントとして、「海フェスタ」を開催している。



2015年度「海の日」ポスター

(2) 2015年海の祭典「海フェスタくまもと」

～くまもとでひらく未来の海・ロマン～

海フェスタは、「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識し、海に対する関心を持つことを目的として、毎年、海にゆかりのある自治体で開催されている。

2015年は、熊本県有明海沿岸地域の7市1町（熊本市、天草市、玉名市、宇城市、荒尾市、宇土市、上天草市、長洲町）で、有明海の代名詞でもある干潟の魅力を全国に発信し、「くまもとでひらく未来の海・ロマン」をメインテーマに地域間の交流を深めるとともに、地域全体の発展及び海洋振興を図ることを目的に開催される。



海フェスタくまもとポスター

海フェスタくまもとの情報：<http://www.umifesta-kumamoto.com/>

◆海フェスタくまもとのイベント◆

熊本港で開催される海の総合展では、「ARIAKE 8 EXPO」と称して、豊かな個性と自然に恵まれた熊本の海や最先端の技術やマリンスポーツを体感しながら、海事・海運の役割等を学べる8つのゾーンで構成されており、子供から大人まで楽しめる見応えある展示会となっている。

また、練習帆船「海王丸」をはじめ、環境整備船「海輝」、海上自衛隊 護衛艦「とね」などが入れ替わり熊本港に入港し、体験乗船や一般公開が行われる。

さらに、海フェスタ開催中には、「さかなクンのお魚講座」、「造船所特別見学」、「セイルドリル体験」等、海に関するバラエティに富んだイベントが予定されている。

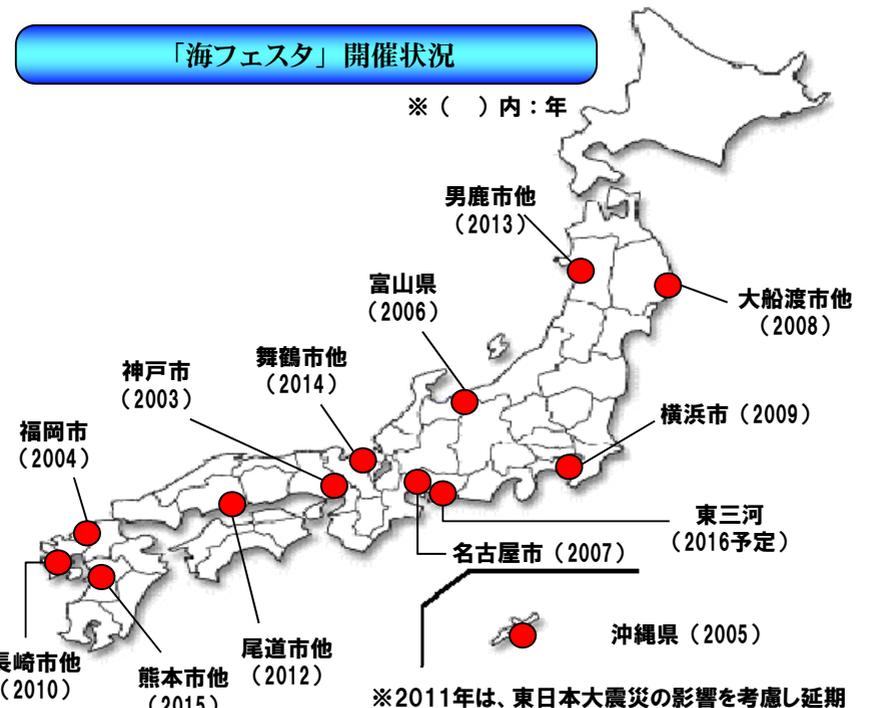
なお、来年の2016年には、「海フェスタ」を、愛知県豊橋市を中心とした5市2町1村（東三河地域）で開催することが決定している。



練習帆船「海王丸」



佐原豊橋市長に対し開催決定通知書を交付する太田大臣



【コラム】ご存じですか？ ～海事遺産について～

「海事教育及び訓練」をテーマにした本年の国際シンポジウムにおいて、セッションテーマの一つにもなっている「海事遺産を活用した教育」。日本各地には、過去に海洋立国日本の発展に大きく貢献した海事遺産が数多く残っており、今回のイベントを通じて多くの方々を紹介し、日本と海との関わりについて理解を深めて頂くこととしている。



◀ 明治丸：1875年から横浜に回航するロイヤルシップとして、明治天皇や皇族も乗船された。関東大震災や東京大空襲では被災者を収容し、災害救援にも貢献してきた。日本に現存する唯一の鉄船であり、鉄船時代の造船技術を今に伝える貴重な遺産である。（1978年、国の重要文化財に指定。）

▶ 帆船 日本丸：1930年建造の練習帆船。54年間で約1万名の実習生を育てた。現在は旧横浜船渠の1号ドックに係留され、ボランティアによる総帆展帆を年間約12回実施している。



◀ 犬吠埼灯台（千葉）：1874年、英国人ブラントンの設計により建造された。「世界灯台100選」、「日本の灯台50選」、また2010年には国の登録有形文化財に登録されるなど、文化的価値が高い。最大の第1等レンズを使用した日本に5つしかない第1等灯台。

▶ 浦賀ドック（神奈川）：2003年まで、100年以上にわたり、日本丸、海王丸、青函連絡船など約1000隻にのぼる艦船を建造し続けてきた。今でも残る30mクレーンや煉瓦積みドライドックも当時の面影を残す。



◀ ジャイアント・カンチレバークレーン（長崎造船所）：日本初の造船所の電動クレーン。設置から100年以上たった今でも、長崎港からの蒸気タービンや大型船舶用プロペラなどの出荷に使用される、明治日本の産業革命遺産である。今年、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に世界文化遺産への登録が勧告された。登録されれば、稼働中の施設を含む世界遺産としては国内初となる。

▶ 小樽運河倉庫群：小樽運河は、全長1,314m、幅40mの水路として1923年に完成した。大きな船舶を沖に泊め、はしけを用いて運河経由の貨物を荷揚げしていた。小樽港の埠頭岸壁の整備などにより従来の使命を終え、現在は、周囲に散策路や街園も整備され、レストランなどに再利用されている。



◀ 横浜赤レンガ倉庫：明治政府により建設された、横浜港にある国営保税倉庫。日本初の業務用エレベーター、避雷針、消火栓を備える。現在はホール、広場、店舗等からなる横浜赤レンガパークとなり、2007年には近代化産業遺産に認定された。